



京都 YWCA

9 2012

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

福島の子どもたちが夏のリフレッシュプログラムを楽しみました

京都 YWCA では、7月23日から8月4日まで小学生 20 人、8月5日から10日まで中学・高校生 11 人を福島から迎えました。昨夏と今春に引き続き、この夏も心身ともにリフレッシュしてほしいという思いを込めて、沢山のボランティアの協力を得て実施されたプログラムです。小学生は、自然に触れてのびのび身体を動かせるキャンプや陶芸、ピザ作りなどのワークショップを楽しみました。中学・高校生は午前中は基本的に勉強タイム、午後からは同志社、立命館、京都大学を訪れて大学体験をしたり、要望のあった新撰組の史跡を訪ねたりしました。朝晩はホームステイ宅にお世話になりました。短期間でも被曝の心配のない場所で過ごすだけでなく、当たり前な夏休みを楽しんでもらえることも大切にしました。 (篠田 茜)

小学生プログラムと子どもたちからの一言

夕日と湖がきれいだった。でっかい海草を木のぼうでつった。(YOU)

今日、こどもまつりにいきました。かげえや、けん玉、水にビーズを入れるのが楽しかったです!(M)

今日ピザを作ったよ。こねたりしたいへんだったよ。たべたらおいしかったよ。(R)

お別れがさみしいです。(N)

7/23	ウェルカムプログラム
7/24	琵琶湖畔のキャンプ場へ
7/25	琵琶湖で水遊び
7/26	京都に戻り、ホームステイ先へ
7/27	京都府立太陽が丘プールへ
7/28・29	ホストファミリーとともに
7/30	陶芸体験/えいごであそぼう
7/31	ピアノワークショップ/観光・あそび
8/1	ピザ作り/観光・あそび
8/2	宇治のキャンプ場へ
8/3	京都に戻り、ももたろうワークショップ
8/4	さよならパーティー

カレー作りをした。わたしはたまねぎをきってなみだがでた。(らーちゃん)

プールで遊んだ。ウォータースライダーにのった。(H)

きのうかん光でにんじゃやしきに行ってたのしかったです。(S)

- ◆らいねんもここにきたいです。(M2)
- ◆メチャクチャ楽しかった。ww 京都また来たい。(シュウ)
- ◆キャンプがたのしかった。ホームステイがたのしかった。湖であそぶのがたのしかった。(R2)
- ◆一ばんたのしかったことは、みんなでびわこには行ってあそんだことです。(M3)
- ◆①プール ②とうげい ③ぎんかく寺に行ったこと (F)
- ◆いもりとやもりをつかまえたからうれしかった (C)
- ◆最初はきんちょうしてみんなと話したりできなかつたけどだんだん仲良くなってだんだん楽しくなってきました。いろいろなこと前からやってみたかったことができ、うれしかったです。2週間も家をはなれたことがなかったので他のもっと長いキャンプも参加してみたいです。(K)



びわこでスイカ割り

陶芸は集中して仕上げました!

<京都 YWCA 被災者支援>

中学・高校生プログラム

福島からの中学・高校生は毎日ホームステイをしている家から京都 YWCA へ通い、午前中は学習、午後は大学のキャンパス訪問、名所観光、美術館訪問など有意義な時間を過ごしました。参加した高校生に感想を書いてもらいました。

齋藤 柚 (高校2年生)

京都では充実した6日間を過ごすことができました。放射線をまったく気にせずに遊ぶことができ本当に良かったです。私は今回のこのプロジェクトで、初京都、初ホームステイ、初電車通いという初めてづくしで、京都に着いたばかりのときは少し緊張していました。でも、吉村千恵さんをはじめとする YWCA のみなさんや、ボランティアでくださった方々が親切にしてくださり、嬉しかったです。

午前中の勉強の時間では、普段より数倍勉強が捗り、ボランティアの方のおかげで分からなかったところも解るようになりました。感謝しています。

午後のプログラムでは私たちが美術系の学校に通っているということで美術館めぐりをしたり、歴史好きのために新撰組ゆかりの地を巡るコースなど、私たちのことを考えたプログラムを用意して頂けて、楽しい時間を過ごすことができました。

ホームステイでは良い思い出がたくさんできました。とても感謝しています。親切に頂きありがとうございます。充実した6日間をありがとうございました。

佐藤真央 (高校2年生)

今回、京都 YWCA の協力の元、楽しい6日間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

私は中学の修学旅行で一度、京都を訪れましたが、その時とはまた違う京都を味わいました。ホームステイ先のご夫妻にはあたたかく迎えていただき、YWCA の会員、ボランティアの皆さんには、いろいろなどころでお世話になり、書き表せないくらい感謝しています。

6日間でたいへんなこともありましたが、そのことも、楽しい思い出の一つとして、いつまでも忘れません。駅で電車を間違えそうにもなりました。体調を崩したこともありましたが、しかし、終わってしまったえば笑い話になって、京都での期間、私は幸せを感じていました。



ホームステイ先でのたこ焼きパーティー



桃太郎 ワークショップ 報告



福島からの小学生の2週間近い京都での夏休み最後の夜、ワークショップの時間を持たせていただきました。童話の桃太郎を題材に「ho'o pono pono (ほーぼのぼの)」という「お互いを知り合い、対話によって紛争を解決する」プログラムの初舞台でした。

当日、子どもたちはキャンプから帰ってきた後で、疲れているところに、「参加型」とはいえ、少々学びモードのプログラムに退屈しないかな、フクシマの現実を抱えた子どもたちにワークショップだけ提供するような関わり方で良いのかな、等々心配していたのですが、子どもたちはこの日初めて接した私たちを自然に受け入れ、用意したお面作りや桃太郎劇のシナリオ読み合わせにもしっかり参加してくれました。

短い時間とはいえ、子どもたちと出会えたこと、アテンドに関わる会員・職員の姿を見て京都 YWCA のパワーを再確認できたことで、これからもフクシマにも、YWCA にも関わり続けたいと思いました。

(ほーぼのぼの会 今井貴美江)

京都 YWCA にはこんな素敵な講師がいます。いっしょに学びませんか？

韓国語講師
呉 珉庚 (オ・ミンギョン) さん



“日本に来て、一番驚いたことは何ですか。”
“特に…、ありません。”

私は、初めて出あった日本人によくこのような質問を受けますが、相手は期待外れな私の答えにがっかりするかも知りません。私は韓国外大で日本語と日本学を専攻しましたので、表面的な生活にはそんなに驚くことはありませんでした。むしろ、日本での生活で一番驚いたのは、それまでの自分が持っていた偏見と浅い知識が内面から崩されていく過程そのものでした。一例をあげると、韓国人はよく日本人を冷たいと言います。しかし、愛と情を表現する方法と時間に差があるだけで、温かい心は変わらないのです。

私は単に、韓国語を話せるようになることではなく、言葉の裏にある背景を伝えることによって、相手を理解し、より親密なコミュニケーションが築けるようになることを目指します。

2002年福岡に来て、2010年結婚して京都に来ました。これから京都 YWCA に長くお世話になります。京都のみなさん、よろしくお祈りします！

ボランティア入門講座 「被災者を支援すること」と「傾聴」

福島支援などのボランティア活動に参加される人のための基礎講座として、7月7日、ホリスティック教育実践研究所所長の金香百合（きむ かゆり）さんをお招きして基本的な心構えを学ぶワークショップを開催しました。

当事者の生きる力を引き出すために

金さんは、神戸の震災と比べて福島はその被災地の広大さ、行方不明者の多さ、放射能の問題など、人々が抱える困難のかつてない深刻さを語られました。対人援助に必要なこととして語られたのは、「人間力」、「社会力」、「対話力」です。当事者と支援者は対等であることを基本にして、共感をもって聴き、秘密を守り、当事者の「自己決定」を尊重することが大切です。

対話力は習慣によって獲得できる

人間は人との関わりで生き、対話や体験を重ねて人として育っていきます。対話において、自分を素直に話すこと（自己開示）と相手の話を受け止めること（傾聴）の両方が必要です。別れや喪失を経験する人生において、心の回復には「時間」や新たな獲得経験と共に、見守ってくれる人や寄り添ってくれる人が重要です。つらい経験をした人も良い聞き手がいれば話すことができ、「話すことは手放すこと」につながります。

ゲームや携帯電話などがあふれる現代社会では対話が少なくなっている上に、自分是对話が下手だと思いつている人がいます。しかし、習慣によって誰もが対話力を身につけることができます。

時にユーモラスで説得力ある金さんのお話にぐいぐい引き込まれ、参加者も二人一組になって「対話」の形を体験しました。各参加者は、これを今後の色々な場面に役立てたいと感じたのではないのでしょうか。

(編集部)

シリーズ 福島から京都に避難して ③

こどもたちの夢の夏「同級生再会プロジェクト」を終えて

西山 祐子

福島県から京都に避難している子どもたちの友だちが京都で再会する「同級生再会プロジェクト」が7月29日から8月1日まで3泊4日の日程で行われ、福島から31名、京都から19名の子どもたちが久しぶりに再会し、思い出作りをすることができました。(26名の保護者の方も参加されました)

きっかけは避難している子どもたちの「お友達に会いたいから福島に帰りたい」という声でした。「福島の友達に思いっきり外で遊んでほしい」との京都の子どもたちの声を反映して、アスレチックやキャンプファイヤ、野外でのカレー作りなどの野外活動に加え、遊園地にも行きました。久しぶりの再会に照れていた子どもたちも日に日に打ち解け、とびっきりの笑顔を浮かべて遊んでいました。

福島と京都に虹をかける

私は、京都に避難して以来、地元の方々の温かい支援に支えられて生きてこられました。福島の子どものたちやお母さんたちに京都の人たちの思いを伝えたいと思い、ボランティアの方たちを集め「こどもたちの夢の夏応援隊」を結成しました。寄付をして下さった多くの方々の他に、企画、運営を手伝って下さった支援団体の方々、食材を支援して下さった方々、食事を用意して下さった方々、プログラムに協力して下さった方々、子どもたちと一緒に遊んで下さったボランティアの方々等、200名以上の方がプロジェクトを支えて下さいました。

「外で思いっきり友達と一緒に遊べてよかった」「京都に住みたいと思った」と子どもたちから、また「京都の方々の熱い思いを感じた」「京都と福島に虹をかけてくれた」との参加されたお母さんたちから声を聞き、プロジェクトを立ち上げてよかったと思いました。今なお、室外で思いっきり遊べない福島の子どものたち。そしてそのような不自由な環境の中で子育てをしなければならないお母さんたち。「福島を思っている」人たちが遠く離れたところにもたくさんいるということが少しでも生きる力になってくれればいいと思っています。また会える日を楽しみにしています。



YWCAのなかが見た世界

イングランドの一都市・ブラッドフォードからパレスチナを想う

●ブラッドフォードにおけるパレスチナ連帯

イギリスには、大学や地域社会にパレスチナと連帯する団体が数多く存在している。私が大学院生として平和学を学ぶブラッドフォードという街にも、パレスチナ連帯キャンペーン（Palestine Solidarity Campaign：以下PSC）という市民団体の支部や、大学のサークルのようなものがあって、パレスチナに関する地域住民や学生たちの理解を促すための映画上映を行ったり、国際法に違反するイスラエルと共謀する企業を批判し投資引き上げを促す運動などを行っている。

●アブー・バクルがくれたもの

私がムハンマド・アブー・バクルに出会ったのは、ブラッドフォードに支部を置くPSCの月例ミーティングに初めて参加したときのことだ。それから私はPSCのイベントに参加する度、彼の妻コーセルと、生まれて間もない小さな娘アラビアに会うのが恒例となった。アブー・バクルはいつも笑顔で、ネイティブとの英会話にまだ自信がなかった私にも信頼を置いて仕事を任せてくれたり、大学での私の生活を気遣っているいろいろな相談にも乗ってくれた。

そんな彼の突然すぎる訃報が私のもとにやってきたのは、まだ寒い3月のことだった。彼が支持するジョージ・ガロウェイの選挙活動に従事している時に、心臓発作で斃れたとのことだ。パレスチナの人びとと連帯した心優しい活動家、アブー・バクルの最期の言葉は「パレスチナ」だった、と報じられている。

私にとって彼と過ごした時間は、心細さや自信の無さでいっぱいだった私に、「パレスチナ」を通じて居場所だけでなく、私にもできることがあるという自信を与えてくれた。パレスチナについて学び、人びとと連帯して声をあげ続けることが、彼の意思を継いで私にできることだと思っている。

（京都YWCA会員 堀部 碧）



ブラッドフォード大学からガザへの訪問団に参加。ガザの学生と

今後のプログラム

子どもの居場所「ガジュマルの樹」開室！

2012年9月18日（火）15:00から

- ◆対象者：小学校4年生から小学校6年生まで（ただし弟妹の場合に限り3年生以下でも可）
- ◆開室：毎週月・火・木 15:00～19:00まで（20時まで延長の場合は手作り夕食付）
- ◆利用料：12,000円/月（20時まで利用の場合、プラス500円/回）
- ◆定員：15名
夜まで子どもだけで過ごさせるのは不安、豊かな放課後を過ごして欲しい、宿題は終わらせてほしい、親の残業がある時には温かい夕食があれば・・・など、働く保護者の方の想いに応える子どもの居場所「ガジュマルの樹」がスタートします。子どもたちが安心して個性豊かに育つ場の一つとなれるよう、様々な特別プログラムも準備しています。

◆ ◆ ◆

ピーター・バラカンDJライブ

2012年10月6日（土）

14:30開場、15:00スタート

- ◆参加費 2,500円（会員割引あり・お茶菓子つき）
- ◆定員：80名（要予約）
テーマは「映画・音楽」です。映画に関係したバラカンさんが好きな音楽の紹介をされます。

ご寄付ありがとうございました。

敬称略（2012年6月1日～2012年7月31日）

*一般寄付

弘中奈都子、久保美恵子、垣田、辻野茂子、荒垣加津子、井上依子

*指定寄付

東北地方太平洋沖地震 被災者支援
徳永朝子、安藤いつみ、張善花、腹話術協会、山本知恵、吉村千恵、吉川文一、あじさいバザール来場者、神崎清一、萩原奈苗、大島溥子、金香百合、篠田茜、菊池サリーナ
親・子育て委員会：親子育ち支援委員会有志

APT：井原圭子、織田雪江、本田次男、北村保子、Le Bail Helene、林律、張善花、蔭、グレイス、ポップ、ジョージ、水嶋、デレック、小路、神門佐千子、上原従正、上杉進也・浅井桐子、嶋川まき子、山内上枝、安藤いつみ、大西澄子、仲本直子、京都市立朱雀中学校、坂和優、孫美幸、上原有美、山根啓子、中村尚司、西原美那子、永井靖二

国際委員会：西森頼子、井上依子

チャリティーイベント：萩原奈苗

次世代委員会：ドーナッツ、上田理恵子、次世代プログラム有志

ミニホール・キッチン改修募金：中井和子、斉藤洋子、井上依子

賛助費：神岡茂子、狭間紀美子、長谷邦彦、中村美智子、

福嶋瑠美子、猿山由美子、中村和雄、辻野茂子、中地重晴、

服部素、早川久仁子、岡昭男

7月・8月／理事会報告

- 子どもの居場所事業「ガジュマルの樹」を9月後半にスタートする。
- 文化庁委託「生活者としての外国人」のための日本語教育事業（「日本語教育」「ボランティア養成」「教材作成」）を9月末からスタートする。
- 9月から同志社大学との賃貸契約を13室とする。（新しく留学生12名が入居予定）
- 2011年度決算報告と承認（6月）ならびに、2012年度1/4期決算を承認（7月）
- 他団体協力関係
 - ①「2012年平和のための京都の戦争展」への協賛
 - ②「8.6新聞意見広告2012」への協賛
 - ③「第2回AIDS文化フォーラムin京都」への後援 2012年10月6日（土）、7日（日）@同志社大学

KYOTO YWCA No.510

2012年9月号（9月1日発行）

発行人 上村愈巳子

発行所 一般財団法人京都YWCA

京都市上京区室町通水上ル

電話 (075) 431-0351 FAX (075) 431-0352

e-mail office@kyoto.ywca.or.jp

URL http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替 01080-9-1566

口座名義 (財)京都YWCA

定価 50円